

## 自動運転を巡る諸課題及び社会受容性について

### 《技術的課題》

#### ○ 自動運転車と非自動運転車の混在

自動運転車両のための専用車線を設けない限りは、自動運転車と非自動運転車が混在することは避けられないが、相手にとって予想外の動きを相互にとることによって、道路上での危険や混乱が想定される。

#### ○ システム障害時の対応

完全自動運転以前の段階では、緊急時やシステム障害時に自動運転から手動運転に切り替わることとなるが、ドライバーが即座に対応できない場合が想定される。

#### ○ センサーによる認知の限界

センサーで計測できるのは限定された情報であり、あらゆる状況を完全に識別することは困難であるため、状況の読み違い等により適切な制御を行うことができない場合も想定される。

### 《倫理的課題》

#### ○ リスク発生時の判断基準

避けられないリスクが発生した場合にどのような選択肢をとるのかについて、予め自動運転車の判断基準を決めておく必要があるが、場合によっては「生命の選択」に繋がる恐れがあり、慎重な検討を要する。（所謂トロッコ問題）

#### ○ システム過信のリスク

ドライバーがシステムを過信し、システムの限界を超えた環境、条件で、自動運転を実行し、危険な状態に陥るリスクが想定される。

### 《経済的課題》

#### ○ 導入・維持管理経費

様々なセンサーを含む車載装置を装備することにより、車両価格が嵩み、

実用化に当たっての障壁となる可能性がある。車載装置だけでなく、路上装置の併用も想定する場合には、更に莫大なインフラ整備コスト、維持管理コストを要する可能性がある。

## 《法的課題，制度的課題》

資料5別紙（自動運転をめぐる最近の動向と警察庁の取組について）参照

※ 平成29年6月に「遠隔型自動運転システムの公道実証実験に係る道路使用許可の申請に対する取扱いの基準」が策定され、遠隔型自動運転システムの公道実証実験について、道路交通法第77条に規定する道路使用許可の対象行為とすることとなった。

## 《社会受容性》

### ○ 受け入れる側の心理

自動運転車両に対する社会的信用が醸成されるまでの間は、得体の知れない存在として敬遠される可能性がある。また、事故の際の被害者側の感情のやり場など、様々な場面で心理的障壁が生じる可能性がある。

### ○ 関連職種関係者の心理

自動運転の活用により、これまで必要であった職業が、そのままの形態では不要となる可能性があり、関係者の間では、自動運転技術の活用を拒絶するような論調が起きる可能性がある。

### 【参考文献等】

- ・JRIレビュー 2017 Vol.2, No.41（自動運転車の五つの社会実装課題に対する技術的なアプローチの提案，創発戦略センター シニアスペシャリスト 木通 秀樹）
- ・NHK オンライン「どう越える？自動運転の壁」（時論公論）2016年10月19日（水）室山 哲也 解説委員
- ・自動運転の法的課題について 2016年6月 一般社団法人 日本損害保険協会 ニューリスクPT